

房総をつなぐ、 「房総横断鉄道」

たすきプロジェクト

今回は、千葉県の代表的なローカル鉄道と千葉銀行グループがタッグを組んで行った地域おこしの取り組み「房総横断鉄道 たすきプロジェクト」をご紹介します。



人口減少、高齢化が進む

小湊鐵道・いすみ鉄道沿線地域

千葉県の代表的なローカル鉄道である小湊鐵道といすみ鐵道。小湊鐵道は、市原市の五井駅を始点に大多喜町の上総中野駅まで39・1km、いすみ鐵道はいすみ市の大原駅から上総中野駅まで26・8kmと、両鐵道の線路は上総中野駅を結節点として、ちょうど房総半島の中央部あたりを横断するように敷かれている。トロコ列車などの観光列車も走り、車窓からは牧歌的な雰囲気。がたごたよう里山の風景を眺めることができる。春先には、沿線に咲く菜の花も美しい。

その沿線地域（市原市、いすみ市、勝浦市、大多喜町、御宿町）では、人口の減少が進んでいる。

沿線地域の人口をみると、2005年：371,557人→2025年：323,727人と20年前と比較して▲12・9%（▲47,830人）減少した。同期間の千葉県（同+2・6%増）や全国（同▲2・2%減）に比べると、落ち込みは大きくなっている。また、将来の人口に目を向けても、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年（20年後）の沿線地域の人口は、260,314人と25年比▲19・6%減となっており、千葉県（同▲7・1%減）や全国（同▲8・6%減）と比べると減少幅が大きい。

沿線地域では人口減と共に、高齢化の進行も進む。沿線地域（2005年：19・8%→2025年：33・6%→2045年：41・1%）は、千葉県（2005年：16・7%→2025年：27・6%→

2045年：34・8%）や全国（2005年：20・1%→2025年：29・6%→2045年：36・3%）と比べると高齢化の進みが早くなっている。

地域を盛り上げる

「房総横断鉄道 たすきプロジェクト」

そんな沿線地域を盛り上げようと、両鐵道と千葉銀行グループがタッグを組んで、新たな地域おこしの取り組み「房総横断鉄道 たすきプロジェクト（以下たすきプロジェクト）」が始まった。両鐵道の沿線地域の事業者が、ちばぎん商店株式会社との運営する購入型クラウドファンディング「C・VALUE」を通じて新たな商品やサービスを提供し、地域の新しい魅力創出を図る。たす



たすきプロジェクトバナー



たすきプロジェクト第2弾

きには、前述の両鉄道の線路をつなぎ合わせる
と、房総半島をたすき掛けにしているように見え
ることに加え、新たな商品や事業の創出によって
地域活性化に貢献する未来への「たすき」、参加企
業同士のマッチングなど人と人との「たすき」と

いった意味が込められている。

2024年12月に開始したたすきプロジェクト
第1弾企画では、小湊鐵道沿線の移住者を巡る
ツアーやいすみ鐵道沿線の宿泊施設による地元
食材を使用した限定ディナーコース、竹林整備と
メンマづくり体験など個性豊か
なプランが揃い、合計400万円
以上の支援を集めた。いずれも沿
線に足を運んでもらうきっかけ
くりを主眼に置く。

1000人を超える 来場者を集めた たすきプロジェクト第2弾 「結び目マチルシェ」

今年4月26日にはたすきプロ
ジェクト第2弾として、小湊鐵道
といすみ鐵道の結節点となる上
総中野駅にて、両鉄道の沿線グル
メなどを楽しめるイベント「結び
目マチルシェ」が開催された。当日
は、地元のグループによる和太鼓

の演舞やダンス、ハンドベル演奏などが披露され
会場を盛り上げたほか、地元のクラフトビール
やジェラート、ジビエ料理など沿線のグルメが約
30店舗出店。人口8,000人の大多喜町に
1,000人を超える来場者が訪れ、大変な賑わ
いを見せた。来場者からは、こうした大規模なイ
ベントは地域では少なく、地域で交流するきっか
けとなっているとの声も聞かれた。

あわせて同イベントでは、C-VALUE上で
新たに公開する11の新企画を沿線事業者自らが
プレゼンテーションを行い、直接来場者に支援を
訴えた。千葉銀行からは、スマートフォンアプリで
閲覧・コレクションができる両鉄道公認の車両型
「房総横断鉄道 たすきNFT」(※)(期間4/26
6/26)を配布したほか、沿線地域への誘客・回
遊を目的にスタンプラリーイベント(4/26〜7/
26)などを発表した。スタンプラリーは、沿線地域
の駅やグルメ、観光名所など50か所にスポットを設
置し、3か所集めると特別乗車券、25か所集めると
沿線旅館の宿泊クーポン券が当たるイベント
で、沿線地域での回遊性を高め、新たな魅力を発
見してもらいたいと考えた。



「結び目マチルシェ」 ジピエ料理や沿線事業者などのブースが並ぶ



発表会のようす

沿線地域の活性化が必要

沿線地域の人口減少と高齢化を背景として、小湊鐵道・いすみ鉄道の利用客も減少している。こうした負のスパイラルが続けば、人々のコミュニティ活動や、経済活動を支えてきた地域鉄道の縮小、廃線につながりかねない。

こうした事態を回避するためには、地域の新たな資源・ニーズの発掘と成長への継続的な支援・投資に地域の関係者が連携して取り組むことが不可欠だ。その意味で、地域の事業者が連携し、地域へ投資を促す「たすきプロジェクト」は大きな意味を持っている。地域の魅力的かつ新たな資源を見出し、そこに投資を集める。本プロジェクトがきっかけとなり、地域の活性化や関係人口の増加、移住定住につながるなど地域全体の盛り上げにつながっていくことを期待したい。

(文責：株式会社ちばぎん総合研究所

長島 裕之)

(※) NFT:「Non-Fungible Token」の略。ブロックチェーン技術を用いて、デジタルデータに唯一の性質を付与して真贋性を担保する機能や、取引履歴を追跡できる機能を持たせたもの。

日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ① 複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ② 他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
 - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)